

アセスメントポリシーによる学習成果及び教育効果の検証 **アドミッションポリシー**

		アドミッションポリシー	
		資料	結果と解釈
機 関 レ ベ ル	①各種入学選 抜	合格者 36 名、入学者 34 名であった。 入学者の評定平均値の平均は 4.01（標準偏差 0.62、最高値 4.9、最低値 2.8）、 小論文試験の平均点は 78.45（標準偏差 7.45、最高点 92、最低点 62）、面接試 験の平均点は 76.93 点（標準偏差 7.24、最高点 94、最低点 62）であった。 本年度は、アドミッションポリシーに合致する学生を募集することができたとい える。	
	②学生調査	短期大学調査からも、本学が第一志望であった割合が 93%（全国平均 88%） であった。また、本学に進学を決める際に重視した点として、「就職するのに 必要な資格が取れる」の項目に 96%が「重視した」「やや重視した」と回答し ている（全国平均 87%）。専門職として社会で活躍するという高いモチベーシ ョンを持った学生が入学していることが伺える。	
教 育 課 程 レ ベ ル	①各種入学選抜	本学は単学科となるため、機関レベルと同一となる。	
科 目 レ ベ ル	③入学前課題 の確認試験	2022 年度入学生の一般教養テスト結果を 2021 年度（問題は同一）と比較する と、平均点は 27.3 から 26.2 に下がっているが、2020 年度入学生の平均点は 26.5 であったことを考えると、入学者の学力は一定程度維持できていると考え られる。入学時の一般教養テストがその後の成績をすべて予測するものではな いが、ある程度の相関はあるため、学力面で平均よりも遅れを取っている学生 に対しては、学習上の支援が必要となる可能性もある。	

アセスメントポリシーによる学習成果及び教育効果の検証 **カリキュラムポリシー**

		カリキュラムポリシー
		結果と解釈
機 関 レ ベ ル	①退学状況	令和3年度入学生 45名 退学者4名、休学者0名
	②休学状況	令和4年度入学生 41名 退学者1名、休学者0名 このことから、教育・学生支援の成果が見られる。
	③短期大学生 調査	<p>・学習意欲、学修行動に関する項目</p> <p>「Q11 あなたが受講した授業では、次のようなことはどのくらいありましたか。」の質問項目は、4件法（よくあった、ときどきあった、あまりなかった、まったくなかった）で調査が行われている。「よくあった」及び「ときどきあった」を合算した割合（以後、「あった」と表現）が、全国平均と10ポイント以上乖離しているものについて取り上げる。</p> <p>「学生同士でディスカッションする」の項目については、本学は「あった」と回答した学生の割合が97%（全国平均87%）であった。</p> <p>「正解や答えのない問題や課題について考える」の項目については、77%（全国平均67%）であった。</p> <p>「教員が提出物に添削やコメントをする」は、「あった」と回答した学生の割合が88%（全国平均77%）であった。なお、昨年度は本学の平均が59%であったことと比較すると、大幅な向上が見られた。</p> <p>単なる知識の伝達にとどまらず、学生が主体的に考える授業が展開されつつあると考えられるため、より良い授業展開を全学的に共有し、広げていくため、今後もますますのFD活動の充実が期待される。</p> <p>一方で、「図書館を利用する」は、「あった」と回答した学生の割合が26%（全国平均42%）であった。「プレゼンテーションをする」は、「あった」と回答した学生の割合が48%（全国平均65%）であった。「パソコンなどの情報機器を使う」は、59%（全国平均86%）であった。</p> <p>これらの結果は直ちにネガティブなものとも限らないが、授業の広がりとして、図書館やパソコン等で調べたり、まとめたり、プレゼン形式で発表したりといった部分では、全国平均と比較すると行われていない傾向にあることが読み取れる。</p> <p>・成長実感に関する項目</p> <p>「Q19 今の短大に入学して、あなたの能力や知識はどの程度変化（向上）しましたか。」の質問項目は、5件法（大きく増えた、増えた、変わっていない、減った、大きく減った）で調査が行われている。「大きく増えた」及び「増えた」を合算した割合（以後、「成長実感がある」と表現）が、全国平均と10ポイント以上乖離しているものについて取り上げる。</p>

		<p>「地域や社会に貢献する意欲」の項目については、成長実感がある学生の割合は、<b>65%</b>（全国平均 <b>50%</b>）であった。地域ボランティアの授業や地域交流活動が奏功していると考えられる。</p> <p>「プレゼンテーションをする力」の項目については、成長実感がある学生の割合は、<b>37%</b>（全国平均 <b>53%</b>）であった。「PC など情報機器を使う力」の項目については、成長実感がある学生の割合は、<b>44%</b>（全国平均 <b>69%</b>）であった。これらの項目に関しては、授業に関するアンケートと同様の傾向が読み取れる。</p>
	④ 学生満足度調査・学習行動調査	<p>本学が実施する学習行動調査において、「授業の予習時間」の項目で「全くしていない」「ほとんどしていない」を選択した学生は <b>60%</b>であった。「授業の復習時間」の項目では「全くしていない」「ほとんどしていない」を選択した学生は <b>16%</b>であり、復習中心の学習習慣となっていることが読みとれる。学習は予習・授業・復習のバランスよく行われることが望ましく、適切な予習課題の設定を教員に求めていく必要があると考えられる。また、「勉学や進路など、学生生活について教員や職員に相談する」の項目では、「まったくない」「ほとんどない」を選択した学生が <b>67%</b>となっており、学生にとってより相談しやすいオフィスアワーの運用方法や、周知について検討する必要があると考えられる。なお、これらのことは令和4年9月の教授会において自己点検・評価委員会から報告がなされている。</p>
教育課程レベル	⑤GPA	<p>GPAは平均が2.56（中央値2.61、最大値3.71、最小値1.33、標準偏差0.55）、3.5以上が2名、3以上3.5未満が8名、2.5以上3未満が22名、2以上2.5未満9名、1.5以上2未満が8名、1.5未満2名であり、このことから、学生は「科目内容を修得し、学習成果を獲得している」と判断できる。</p> <p>手厚い学生支援・指導の対象となる1.5（目指す学習成果の獲得基準）以下の学生は、<b>2名（3.9%）</b>となっている。</p>
	⑥単位習得状況	<p>目的に合わせた最適な算出方法を検討しており今回は除外する。</p>
	⑦カリキュラムマップに基づく学習成果別評価	<p>教養的学習成果において、GPA平均2.0以上の評価を受けている学生の割合は、①<b>65%</b>、②<b>96%</b>であった。</p> <p>専門的学習成果において、GPA平均2.0以上の評価を受けている学生の割合は、①<b>100%</b>、②<b>90%</b>、③<b>82%</b>、④<b>69%</b>であった。</p> <p>このことから、1年間の学びにおいて、学習成果の獲得が進んでいると判断できる。</p>
	⑧成績評価	<p>⑧目的に合わせた最適な算出方法を検討しており今回は除外する。</p>
	⑨欠席状況	<p>⑨2年生では全ての科目の出席率が<b>92%</b>を超えている。一方、1年生では全て</p>

		の科目において 95%を超える出席率である。以上のことから、ほとんどの学生が休むことなく授業に出席している状況にある。
科目レベル	⑩授業評価アンケート	<p>令和4年度の通学課程の前期・後期の授業評価アンケートの結果は、各質問項目に対する回答の平均値は、前期・後期を通していずれも4点前後であり、良好な結果であるといえる。また、「質問16 この授業を、マナーを守って受講しましたか。(居眠り、飲食、携帯電話の使用、私語等)」に関しては、前期 4.32、後期 4.36 と、特に高い評価となっており、学習環境としても良好な状態を維持できている。</p> <p>また、「予習・復習」の項目に関しては、前期 3.54、後期 3.75 となっており、全項目中最も低い平均点となっている。ただし、「質問15 この授業で与えられた課題(宿題など)にきちんと取り組みましたか。」に関しては前期 4.31、後期 4.34 となっている。真面目に授業に向き合っているが、自発的な予習・復習というよりも、課題を通しての授業外学習が中心となっていることが読み取れ、今後学生の主体的な学修を促進することは有益であると考えられる。</p>

アセスメントポリシーによる学習成果及び教育効果の検証 **ディプロマポリシー**

ディプロマポリシー		
	資料	結果と解釈
機 関 レ ベ ル	①卒業率	卒業生 40 名 (45 名入学、退学 4 名、留年 1 名) 88.9% (小数点第 2 位四捨五入) 学位授与数 40 例年 2～3 名の退学者が出るが、昨年度は少し多めの人数になってしまった。教育・学生支援の在り方について検証し、考えていかなければならない。
	②学位授与数	
	③就職率	就職率：97.4% (就職希望者 38 名中 37 名) 専門職率：89.2% (公務員名 4、私立保育園・幼稚園・こども園 22 名、福祉施設 7 名、一般企業 3 名、自衛隊 1 名から、37 名/37 名) 進学状況：4 年生大学 3 年次編入者 2 名 専門職を中心とした就職状況は良好であった。一般企業等の就職は例年並みと言える。姫路キャンパスの 3 期生 1 名 (7 名中) が、昨年度の姫路市に続き、福崎町の採用試験に合格したことは特筆すべきことである。
	④専門職率	
	⑤進学状況	
	⑥卒業時アンケート	卒業時の 1 月に実施した 2 年間の大学の進路指導についてのアンケートである。進路決定において、「教員からのアドバイス」が突出して高く、次に「実習園の園長・先生」が続くが、大学が進路指導の一環として実施する「進路ガイダンス」や「先輩からの講演」などの評価も高かった。大学教員のアドバイスや進路ガイダンス等が進路決定において役に立っているという学生の評価は、昨年度、様々な進路指導の工夫や改善を行った結果であると考えている。大学の進路指導全般に対する満足度も高く、次年度に向けても進路ガイダンス等の在り方や教員同士の情報共有による学生に対する進路指導の強化などについて検証し、さらなる改善を図っていきたい。
	⑦勤務状況調査	卒業後 1 年目の 6 月から 8 月にかけて就職先を訪問し、園長・施設長等と面談し、聞き取りを行ったアンケートである。本学の取組を高く評価して頂いているコメントや、期待を込めて建設的に書いていただいたコメントも多くある。また、昨年度は 3 年ごとに実施している就職先アンケートの実施年であった。就職先全ての園・施設・企業等から回答を得ているわけではないが、総じて肯定的な評価を頂いており、離職率も 6.7% であった。保育・施設分野に限った離職率の資料はないが、短大を卒業して 3 年後の離職率が直近の調査で 43% であったことを考えると頑張っていると考えられる。 本学の特徴である一人一人の学生に対する懇切丁寧な指導を引き続きやっていくことが、本学の信頼をより一層高めることになるものと考えている。ディプロマポリシーについて、特に変更等の必要性を示す明確なデータはない。
教 育	⑧GPA	卒業生 40 名の GPA は平均が 2.41 (中央値、最高値 3.23、最小値 0.94、標準偏差 0.56)、3 以上が 6 名、2.5 以上 3 未満が 13 名、2 以上 2.5 未満 12 名、

課程レベル		1.5 以上 2 未満が 8 名、1.5 未満 2 名であり、学生は「科目内容を修得し、学習成果を獲得している」と判断できる。手厚い学生支援・指導の対象となる 2.2（目指す学習成果の獲得基準）以下の学生は、14 名（34.1%）となっている。
	⑨資格・免許取得状況	保育士資格取得者 38 名（95%） 幼稚園教諭 36 名（90%） 卒業者の多くが資格・免許を取得している。数名が進路等を考えて、資格・免許を取得しなかった。資格・免許取得を第一に考えて入学した学生が、資格・免許取得を辞めたことを重く受け止め、今後の指導に活かしていかなければならない。
	⑩単位習得状況	目的に合わせた最適な算出方法を検討しており今回は除外する。
	⑪カリキュラムマップに基づく学習成果別評価(参考)	教養的学習成果において、GPA 平均 2.0 以上の評価を受けている学生の割合は、①87%、②96%であった。 専門的学習成果において、GPA 平均 2.0 以上の評価を受けている学生の割合は、①79%、②70%、③87%、④57%であった。 このことから、1 年間の学びにおいて、学習成果の獲得が進んでいると判断できる。2 年間の学びの中で、6 つすべての学習成果を獲得し、ディプロマポリシーに合致した人材育成が達せられていると判断できる。